



幹本
申5号

連続して発生する事故・事象の原因を究明し、
安全第一の企業文化をつくりだす緊急申し入れを提出!

2023年1月31日、3025B列車が東京駅発車の際、車椅子用スロープ板が設置されたまま起動するという事象が発生しました。「安全の確立」は労使共通の課題だからこそ、異常事態の中で、当務駅長や乗務員が列車を止めることができなかったことは、重く受け止めなければいけません。また車椅子センター社員が乗車したまま発車しており、車掌、当務駅長、車椅子センターの連携など、早急な原因究明と共に対策を講じなければいけません。

2022年12月18日、159BのL編成列車が郡山駅において、所定停止位置より160mも行き過ぎ、停止現示の出発進路に進入した事象が発生しました。2023年1月29日には、福島トンネル内で2つのコンクリートの塊が発見されました。剥落したコンクリートの重さは、2つ合わせて11.8キロであり、走行する新幹線と衝突したら大惨事につながります。剥落のはっきりした原因は明らかにされておらず、組合員は不安を抱えたまま乗務しています。

JR東労組は、連続して発生している事象は、全て大惨事につながりかねない事象と認識しており、安全に対して強い危機意識があります。会社は「安全はトッププライオリティ」と位置付けていますが、職場内では、これらの事象について、事象の説明や注意喚起はありません。現場で働く組合員が安心して働く環境をつくるために、原因を究明し対策を周知することが重要です。したがって、下記のとおり緊急申し入れを行いました。

申し入れ項目

1. 新幹線運行に関わる安全を脅かす事象が頻発していることについて、下記の事象の原因を明らかにするとともに、対策を示すこと。

- ① 2022年12月18日に発生した159B列車の所定停止位置を行き過ぎ、停止現示の出発進路内に進入した事象について
- ② 2023年1月29日に発生した福島トンネル内コンクリート剥落について
- ③ 2023年1月31日に発生した3025B列車車椅子用スロープが撤去されな
いまま起動した事象について

三現主義に拘り、安全哲学の再確立をめざそう!